

○大波純一¹、南山泰之²、塩谷昌之²、増井誠生³、長岡千香子³、古川雅子³

1. 国立研究開発法人 理化学研究所 バイオリソース研究センター 遺伝子材料開発室、2. 東京大学 社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター
3. 国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター

要旨

研究データ管理 (Research Data Management; RDM) は、研究活動から得られたデータを保存、処理、アクセスするための方法を定義し、実施する一連の活動である。近年、この概念は研究データを社会とどのように共有するべきかという観点から盛んに議論され、欧州ではRDMkitやFAIRcookbookと呼ばれるWebサイトで生命科学分野における具体的な実践方法が共有されている。欧州最大の研究助成プロジェクトであるHorizon EuropeでもRDMkitはガイドラインとして採用されており、適切な研究管理の基準として国際的に認められつつある。この状況を鑑み、本プロジェクトでは日本版RDMkitである「RDMkit-jp」を2023年に公開した。このサイトでは、生命科学分野向けのみならず学術分野全体で利用可能なツールやリポジトリの情報を提供している。加えて、近年はRDM情報の発見性向上とAI可読性向上を目指し、関連文書の収集やRDM固有語彙の分類に着手している。また、学術分野ごとのRDMのベストプラクティスや需要を調査するため、現場の研究者へのヒアリングを行っており、調査結果について共有していく予定である。

内閣府Webサイトの研究データ管理指針

- 2022年以降、「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」のための「メタデータ共通項目」がガイドラインとして公開され、継続して更新されている。

内閣府Webサイト
「研究DX - 科学技術・イノベーション」
<https://www8.cao.go.jp/cstp/kenkyudx.html>



推奨されるメタデータ共通項目



基本的な考え方

[illegible]

大学や研究所などの公的機関は、内閣府の
これらの指針に対応し、
研究データ管理体制を整備する必要がある。

しかし国内の公的機関では、**研究データ管理 (RDM; Research Data Management)** の基礎知識やベストプラクティスなどの情報共有が十分ではなく、**対応が困難**。

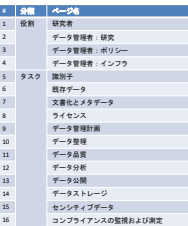
国際プロジェクトELIXIR-COVERAGEでは、「RDMkit」サイトからRDMに関する情報を、CC-BYライセンスで公開している。この枠組みを利用し、日本国内のRDMを扱う立場や目的ごとに平易な言葉で情報共有できるための基盤「RDMkit-jp」を構築

情報サイト「RDMkit-jp」

- トップページ(<https://rdmkit.rcos.nii.ac.jp/>)



以下16ページを作成し、
研究データのライフサイクルや
区分から辿れるように配置。



個別ページでは
平易な説明や
リスト情報を提供

RDMkit-jpのコンテンツ強化

- ## ■ RDM情報公開サイトの状況

国内外の分野ごとや助成機関、研究機関ごとに RDMに関して解説するWebサイトは増加しつつある。

[illegible]

RDMkit-jpは、日本の総合的な視点でのRDM情報のポータルとして、コンテンツの充実と利便性の向上を目標とする

- ## ■ RDMに関する語彙知識の情報追加

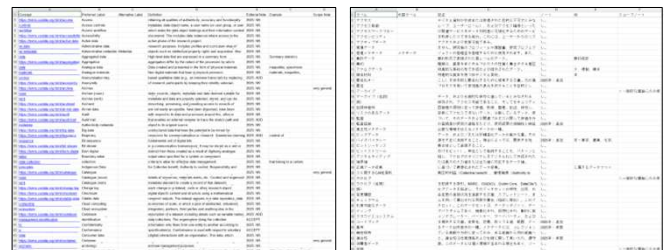
RDMの現場で使われる固有語彙が一般的ではないため、各研究機関や説明ページでは、表現に苦慮している。

有名な事例	意味	適用におけるポイント
リボトリ DOI	研究データを保管する領域 デジタルオブジェクト識別子	元々IT関連用語で、ITの背景知識が要求される 「オブジェクト」や「識別子」という概念は、あまり日常的に意識されることはない
DMP	データマネジメント計画	「データマネジメント」が何を要するのかわかりにくく、その計画に落とし込む時に何が明示されるべきかが不明
ライセンス	作成者の権利を守るための、データ再使用が可能となる基準	デジタルなモノの所有権や権利の考えが必要となる概念。日本語に直訳すると「免許」で、翻訳的なイメージが強い
相互運用性	研究データを研究現場間で流通させ、他の機器やソフトウェアで使えるようにする	研究データが公開されていて、そのレコードは一定のフォーマットで構築が定義されていることが背景として必要

そこで、RDM関連文書の収集と固有語彙抽出を実施し、RDMkit-jp上に「語彙解説ページ」を新規設置予定。



- ## ■ RDMに関する語彙情報（抜粋）



RDMの文脈で使用する場合の適切な意味と、
その関係性を検討し、初めてRDMに触れる利用者が
スムーズに理解できる表現で公開予定

まとめ

- ・ 公的資金による研究データの管理・利活用が必要とされる背景
- ・ 2023年6月に、RDMの基礎情報や公開例を体系化しサイトをリリース
- ・ 国内外でRDMに関する説明サイトは増加しつつあるが、RDM固有語彙の説明に苦慮
- ・ RDMをより分かりやすくする、語彙説明ページをRDMkit-jp内で作成中

- ## ■ 謝辭

本研究は以下の助成の元で実施しました。

- ・文部科学省「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」
- ・情報・システム研究機構 2026年度戦略的研究プロジェクト

「異分野間の研究データ共有と利活用に関する経験の蓄積と高度化に向けた情報基盤の開発」